



Toneyama Kojin

記念美術館通信

Memorial Art Museum News Letter

〒024-0043 岩手県北上市立花15-153-2

TEL/FAX 0197-65-1808

令和7年度前期企画展

6月1日(日)まで

利根山光人 形と色の冒険

画家としてスタートを切った頃の利根山は、佐久間ダムをテーマにした作品群などで社会派の画家として知られていました。しかし、日本画壇の閉鎖性にはなじまず、一時所属していた美術団体も辞めてしまいます。当時の芸術家にとっては、所属する団体に評価され、画壇における地位を確立することが主流でしたが、利根山は1949年、無審査・無賞の日本アンデパンダン展（※1957年以降「読売アンデパンダン展」と改称）に出品します。この展覧会へは前衛作家や意欲的な若手作家が多く出品しており、利根山もこれによってアカデミズムからの脱却を目指したようです。



金星を占う [スケッチ]

当時の美術界で主流だった、パリを頂点としたヨーロッパ美術の潮流に反発するように、メキシコ美術に魅かれることとなります。渡墨して現地の文化に触れるにつれ、その死生観や解放的エネルギーなどは利根山の制作スタイルに直接影響していきました。メキシコの古代遺跡群にもものちの作品の特徴となる抽象性やシンボライズされた形態のヒントがいたるところにあります。それらを上手く取り入れ、発展させたのが利根山の絵画手法の一つなのではないでしょうか。もちろん、生来の「ビックリ人間」とも評されるような明るい人間性も、利根山の芸術性の形成に強く反映されていると考えられます。

戦後、西洋ではピカソに代表されるように、シュールレアリスム、アンフォルメル、ポップアートなどの革新的な新しい風が芸術分野に吹いていました。その影響を受け、当時活躍していた日本人画家たちも具象か非具象かの価値が大きくゆらぎ、新しい価値を求めていました。キュビズムやフォービズムといった表現に挑戦した画家も多く同世代に居ましたが、利根山もそれらの影響を多角的に受けながら、自らのテーマに沿う形で昇華しています。

利根山の作風は、ある時期を境に変化したというわけではなく、自由自在に抽象と具象を行ったり来たりしながら表現に取り組んでいたようで、その柔軟性やしなやかな感性には改めて感動します。制作の根源的なテーマである太陽や民俗、まつり、人間、精神世界といったものを表現するのにもこうした抽象的形態は適していたのでしょうか。自由な発想に基づく瞬発的でのびやかなドローイングの中で出現した形態表現の一環ととらえれば、不思議ではありません。

本展では、テーマやジャンルにとらわれない造形性に焦点をあてて、当市での未公開作品を含む利根山作品35点を展示しました。これを機に、新たな視点から利根山芸術の魅力と奥深さを発見していただけたら幸いです。



民俗 [木版]

関連展示

何がかかっているのかな？

期間:6月1日まで

会場:北上市生涯学習センター内

専任研究員による作品解説会

具象から抽象への展開

日時:5月11日(日) 午前11時～

会場:利根山光人記念美術館内

※事前申し込み不要です。参加無料。

参加希望者は、時間までに美術館へお越しください。

★今年度の企画展情報★

孤高の画家 川村勇展 6月7日～8月24日

ヨーロッパやインドの街角の風景などを描いた油彩画や水彩デッサンなどを展示します。エキゾチックな色づかいと光の表現をお楽しみください。西和賀町立川村美術館との交流企画展です。

画家の流儀 池田次男展 8月30日～11月24日

北上市出身で、花巻を拠点に活動を続けた美術家。晩年は農村部の民家や何気ない風景を多く描き、日常の隣にある美を描写しました。北上や花巻に現存するパブリックアートの紹介も。

新しいサポート組織「光人会」5月に発足

前号でお知らせしたとおり、「友の会」を解散しました。今後、その趣旨を受け継ぐ形で美術館のサポートを行う新組織「光人会」を立ち上げる予定です。

旧会員の皆様からも今後に向けた期待と励ましの声をいただいております。さらに友の会発足時以来の会員である画家の中川迪彦氏（なかがわ・みちひこ、1933年メキシコ生まれ。利根山光人に師事。）からは解散に寄せるお手紙もいただきました。本文を抜粋し、一部紹介させていただきます。

利根山光人先生と私

利根山光人先生との出会いは大学2年生の時でした。（中略）当時は日本からの海外渡航はヨーロッパでもアメリカでもほとんど禁止状態で海外旅行はできないと言われていました。曲折する事情の中で父が身元引受人となって光人先生のメキシコ旅行は実現した次第でした。

横浜港から出港するNYK（日本郵船）の見送りテープを切ったのは（中略）私の実兄中川和彦と東松照明氏のたった2人でした。アメリカロングビーチ港に入港し上陸した光人先生をお迎えしたのは私の大学時代の同級生でした。（中略）光人先生は1年間、メキシコシティの父の家で父と一緒に過ごされました。メキシコシティではメキシコ芸術院（ベージャスアルティス）で個展を開催するなどされ、感激の毎日を絵はがきにして私あてに送って下さったことなど思い出は多数あります。

さて、私、中川迪彦は利根山光人先生ご夫婦から大学時代を含め社会人になってからもあらゆる面で強い影響を受けました。人生の糧としてありがたく深く感謝するものです。（中略）

追記しますと、父中川豊の葬儀には利根山光人先生とメキシコから来て下さったルイス・ニシザワ先生が弔辞を読んでくださいました。ニシザワ先生のスペイン語は私の長兄が同時通訳し、日墨親善の集いというような雰囲気となりました。ニシザワ先生の壁画は京成上野駅にあります。

利根山光人記念美術館の皆様、友の会の皆様とお別れの時が来たことを強く感じます。長い間お世話になりました。厚く御礼申し上げる次第です。利根山光人記念美術館の益々の発展を祈念し、お別れの挨拶といたします。

2024年 中川迪彦

車いすの寄贈がありました

昨年末、(公財)日本博物館協会を通じて(一財)日本宝くじ協会より車いす1台の寄贈を受けました。大切に使用させていただきます。

また、今年度から玄関へ手すり付き踏み台を設置しました。安全に靴の着脱をするためにぜひお使いください。

【予告】絵画修復見学会

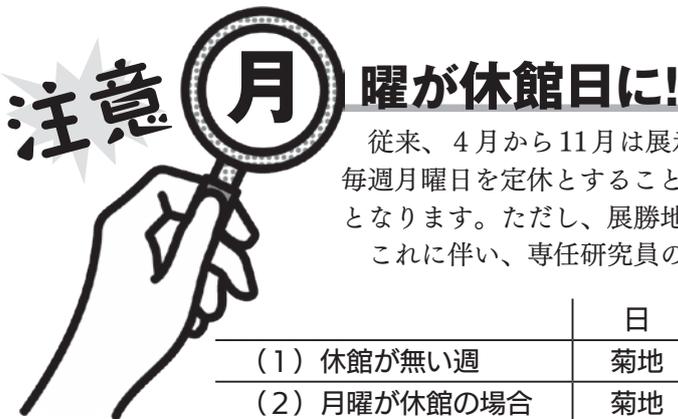
今年度も、展示中の利根山光人作品の修復を5月に行い、さらに昨年大好評だった修復過程の解説を交えた見学会も行います。

絵画や美術に携わるプロの仕事の間近で見られるまたとない機会です。参加方法等、詳細はホームページをご覧ください。

日時 5月24日(土) 午後1時30分～

会場 利根山光人記念美術館内

講師 土師 広さん(絵画修復士)



月曜が休館日に!

従来、4月から11月は展示替えのための臨時休館を除き無休としていましたが、今年度から毎週月曜日を定休とすることとなりました。月曜が国民の祝日の場合は開館し、翌平日が休館日となります。ただし、展勝地さくらまつり期間中や夏休みシーズンは特別に開館します。

これに伴い、専任研究員の勤務も変則的になります。今年の勤務体制は次のとおりです。

	日	月	火	水	木	金	土
(1) 休館が無い週	菊地	菊地	齋藤	齋藤	高橋(浩)	高橋(平)	高橋(平)
(2) 月曜が休館の場合	菊地	(休)	菊地	齋藤	高橋(浩)	高橋(平)	高橋(平)
(3) 火曜が休館の場合	菊地	菊地	(休)	齋藤	高橋(浩)	高橋(平)	高橋(平)

※12月から翌年3月までは冬期休館です。